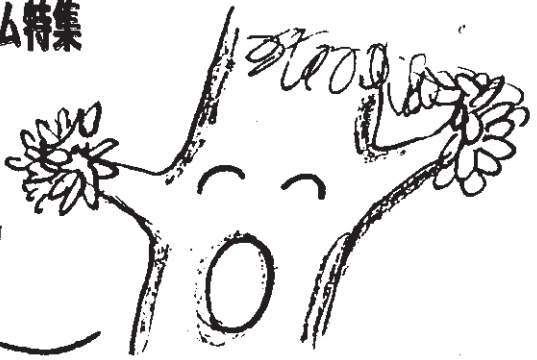


国際・公開シンポジウム特集



第35号



ECOMAIL

関西 ECOMAIL

関西支部会員のみなさまに、ワークショップのお知らせや環境教育に関わる情報の交換をしていただくために発行しています。

また、学会員以外の方々に、環境教育に関心をもっておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションを広く図りたいと思っています。

日本環境教育学会会員のみなさまには支部会費、会員でない方には購読費として、年間1500円をいただきましたら、ワークショップの案内とこの関西 ECOMAILを送らせていただきます。

(通信費振り込み先: 日本環境教育学会 関西支部 郵便振替口座

00990-5-37886)

12/15 日本環境教育学会関西支部第5回研究大会

「震災体験と人々の意識変革—人と自然の共生をめざして—」

日本環境教育学会関西支部では、次のように第5回研究大会をおこないます。会員の皆様の発表とご参加をお待ちしています。

赤尾整志 (日本環境教育学会関西支部長)

プログラム

9:30 受付開始

第1部: 一般研究報告

A (401) 会場「災害と環境教育」 座長: 木内 功、佐藤孝則

10:00 A01. 福島 古 (グローバル環境文化研究所)
世論誘導の解析方法について—都市教育とリスク科学の視点から—

10:30 A02. 秋吉博之 (兵庫県加西市立北条中学校)
身近な自然を生かした環境教育の実践
—防災教育を意図した地域教材の開発と授業実践—

11:00 A03. 上田 学 (大阪教育大学・大学院)
社会環境教育としての技術科教育の検証
—阪神大震災の仮設住宅用踏み台の制作授業を中心として—

B (402) 会場「一般報告」 座長: 田代智恵子、菊地泰博

10:00 B01. 菊地泰博 (兵庫県庁)
環境教育の企業への展開について

10:30 B02. 田伏政昭・喜多嶋伸幸 (和歌山県立向陽高等学校・環境科学科)
環境科学科専門科目「環境科学II (社会科学分野)」授業内容の変遷

11:00 B03. 本庄 眞 (東播原小学校)
カモシカ調査における環境教育

パネル展示

P01. 岸田光平・清水 理 (和歌山県立向陽高等学校)
「産業と環境」—和歌山市色抜き条例より—

11:30 関西支部総会

○日 時: 1996年12月15日(日) 9:30~17:00 ○会 場: 神戸国際会議場 (ポートアイランド) ○主 催: 日本環境教育学会関西支部 ○定 員: 200名 ○資料代: 1,000円 (学生500円) ○お問い合せ先: 関西支部第5回研究大会実行委員会事務局 〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目6-8-1 大阪教育大学 環境科学教育研究室 TEL・FAX 0729-76-3361

今週末です!

第35号 目次

- 12/14 国際シンポジウム
プログラム … 2
- 12/15 公開シンポジウム
プログラム … 3
- 第5回
関西ワークショップ
(内山裕之)の報告(1996/11/9) … 4~6
- 関西支部規約 … 7
- ネットワーク … 8

「環境倫理と環境教育—人と自然の共生をめざして—」

近年、種々の環境問題が一つとなって世界を揺るがしている。多くの人々が棲み家としての「地球」を守るために様々な立場から努力しているにもかかわらず、環境破壊はますます深刻化しています。そこで甲南大学では、日本環境教育学会の援助を得て、「環境倫理と環境教育」を共通テーマとして、日本、タイ、中国、カナダ、ドイツなどから学際的に各分野の専門家を招待し議論するために、国際シンポジウムを開催することになりました。ここでは種々の環境問題を、21世紀に向けての「環境倫理」を検討した上で、その倫理的原理にもとづいた「環境教育」について具体的な議論を展開したく予定しています。

谷口文章（国際シンポジウム実行委員長）

プログラム

- 9:00 受付開始
 9:30 特別講演
 ラダワン・カンハスワン氏（タイ・ラジャバト大学環境教育センター所長）
 「タイの慣習にもとづいた環境教育思想」
 金世柏氏（中国・中央教育科学研究所名誉学術委員）
 「中国の環境思想と環境倫理」
 ヴィルヘルム・フォッセ氏（ドイツ・慶應義塾大学総合政策学部講師）
 「日本における環境運動とその将来—欧米との比較において—」
 12:30 昼食（大学生協食堂）
 13:10 挨拶 中西典彦氏（甲南大学・学長）、沼田真氏（日本環境教育学会・学会長）
 13:30 記念講演 アラン・ドレングソン氏（カナダ・ビクトリア大学教授）
 題目「エコロジー哲学、倫理、教育—人間と人間、人間と自然をつなぐ価値の架け橋—」
 14:30 ミニ・コンサート（甲南女子大学琴麗会）
 14:50 国際シンポジウム：「環境倫理と環境教育—人と自然の共生をめざして—」
 「環境倫理の展開」を中心として
 パネリスト：アラン・ドレングソン氏「エコソフィーと環境教育」
 中村 運氏（甲南大学教授・生物学）「生命と生態系」
 中川米造氏（大阪大学名誉教授・環境医学）「生命の尊さと健康教育」
 金世柏氏「中国の環境教育の思想とその展開」
 「環境教育の展開」を中心として
 パネリスト：ラダワン・カンハスワン氏「タイの慣習に基づいた環境教育のプログラム」
 久武哲也氏（甲南大学教授・地理学）「アメリカ・インディアンから学ぶ環境教育」
 ヴィルヘルム・フォッセ氏「ドイツにおける環境教育」
 鈴木善次氏（大阪教育大学教授・環境教育）「日本における環境教育の展開」
 コーディネーター：谷口文章氏（甲南大学教授・哲学）
 18:10 終了
 18:30 懇親会（甲南大学・生協グリル）

○日 時：1996年12月14日（土）8:30～18:30

○主 催：甲南大学（甲南学園平生太郎科学助成金「環境学の基礎理論」）、日本環境教育学会

○共 催：甲南大学総合研究所「環境学の教育推進研究会」

○後 援：環境庁、文部省、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会（予定）

○会 場：甲南大学8号館（813教室）

○定 員：500名

○資料代：¥500

○懇親会：一般 ¥5,000、学生 ¥2,500

○申し込み・お問い合わせ先：国際・公開シンポジウム実行委員会事務局

〒658 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 甲南大学文学部 谷口文章研究室

TEL 078-431-4341（社会学科事務室）、FAX 0771-23-9464

◆国際シンポジウムは同時通訳付きです。

*お申し込みは官製ハガキかパンフレットに添付のハガキにてお願いいたします。

「震災体験と人々の意識変革—人と自然の共生をめざして—」

科学技術の粋を集めた現代都市、それはまさに現代文明の象徴です。しかし、1995年1月17日の阪神・淡路大震災はそのあり方を問い直す一つの機会となりました。自然に対する人々の意識にも変化が見られはじめています。地震などの自然現象と人間がうまく調和して共生するにはどうしたらよいか。この課題は、今日さまざまな形で現れている環境問題と共通しています。この公開シンポジウムは「人と自然との共生」という課題に対して、地質学、教育学、哲学、心理学などさまざまな角度から検討を加え、人々とその成果を共有することを目的とします。

鈴木善次（公開シンポジウム実行委員長）

プログラム

- 9:30 受付開始
- 10:00 第1部：公開研究発表「災害と環境教育」
001. 藤岡達也（大阪府立大学大学院・大阪府立勝山高等学校）
「環境教育における自然災害教育の捉え方
—兵庫県南部地震が明確にした環境科学リテラシー育成の必要性—」
002. ○関口哲生・井上敏明（神戸海星女子学院大学）（兵庫県庁）
「阪神大震災における救助者の心理と人間性Ⅰ
質問紙による心理調査分析から自然の恐怖と人間性を考える」
003. ○井上敏明・関口哲生（神戸海星女子学院大学）
「阪神大震災における救助者の心理と人間性Ⅱ
面接調査を含めて考えるPTSDと防災教育」
004. 広川恵一（西宮市 広川内科クリニック）
「被災地でのいのちと暮らし—主体の形成
—コミュニケーションとネットワークを見直す—」
- 12:00 昼食
- 13:00 第2部：「震災体験と人々の意識変革—人と自然の共生をめざして—」
挨拶 沼田 眞 氏（日本環境教育学会・学会長）
- 13:20 基調講演 中川米造氏（日本保健医療行動科学会・学会長）
題目「災害と人間の危機行動」
- 14:10 ミニ・コンサート（甲南大学女性合唱団アモローソ）
- 14:30 公開シンポジウム：「震災体験と人々の意識変革」
パネリスト：田中真吾氏（神戸大学名誉教授・地理学）
「神戸付近の自然環境の成り立ちと震災」
辰巳武宏氏（神戸市立御影小学校・理科教育）
「震災体験と小学生の意識変化—心のケアとビオトープ作り—」
古川英治氏（北淡町立北淡西中学校・理科教育）
「震災体験と中学生の意識変化—大震災を通しての環境教育の実践—」
木内 功 氏（大阪府青少年活動財団・総務主任）
「ボランティア活動から見た環境教育」
谷口文章氏（甲南大学・哲学）
「心的外傷を契機とした『人と自然の共生』への自覚」
コーディネーター：鈴木善次氏（大阪教育大学・理科教育）
- 17:00 閉会

○日 時：1996年12月15日（日）10:00～17:00

○主 催：日本環境教育学会、文部省（平成8年度科学研究費補助金B）

○会 場：神戸国際会議場（神戸ポートアイランド）

○定 員：360名

○会 費：無料

○申し込み・お問い合わせ先：国際・公開シンポジウム実行委員会事務局

〒658 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 甲南大学文学部 谷口文章研究室

TEL 078-431-4341（社会学科事務局）、FAX 0771-23-9464

※なお、お申し込みは官製ハガキかパンフレットに添付のハガキにてお願いいたします。

◆当日参加も可能です。たくさんの方々の御参加をお待ちしております。

第54回 関西ワークショップの報告 (1996/11/9)

(このワークショップはエコメール第34号で「第53回と
なっていましたが、間違いです。訂正しておわびします。)

話題提供者 内山裕之氏 (神戸大学発達科学部附属住吉中学校)

テーマ 「中学校選択理科における環境教育の実践」

—イノシシの餌付けは是か非か—

内山先生は最初、御自分が先生になるまでの経緯を話されました。資料としても
って来られた冊子「理科教師日記」『のたうちまわって生きていこう』から少し引
用すると、

教師になるきっかけは定時制高校の仕事

私は京都で学生時代を送った。真面目な学生とは言えなかった。中身なんて
観念的にしかわかってないにくせに、マイクで「京都の全ての学友の諸君に訴
える。政府＝自民党のあの反動的文教政策を断固、打ち破り……」などとアジッ
ていた。それで授業に対してはさぼりがちだった。

そんな時に定時制のアルバイトがまいこんできた。警備の仕事だったけれど、
生徒と打ち解けて話すうちに、教師になりたいと思うようになってきた。
…(略)…田舎から集団就職で京都に来ている子は「正看護婦になるには、ま
ず高卒の資格がいるんです」と言って、一生懸命に勉強していた。彼女らの前
向きな姿を見ていると、自分自身の甘ったるい生き方が恥ずかしくなった。
「よし、留年しそうなのを他のせいにと、がんばろう」というように心が
洗われるかのように自分の気持ちが変化していった。

そのあとの話で、留年の覚悟をして一生懸命勉強したら、結果的に卒業できて大
学院に進学した、というところは楽しく聞かしていただきました。

内山先生の現在の世界観は学生時代のサークルが影響しているようです。前述の
文章から引用すると、

自分たちでサークルをつくった

学生時代の私は、今風の出席を気にして講義をきちんとうけるというタイプ
の学生ではなかった。しかし、自分なりに何かを学んでいきたいという熱意だ
けはあった。学部・学科をこえて始めた“科学論サークル”には誠心誠意、取
りくんだし、その時に学んだことは未だに私の心の支えになっている。“科学
は両刃の剣なんだ。人間にとつともない幸福を持たらす反面、公害や原爆など
を生んで人類を滅ぼしかねない側面を持つ。しかし、科学にその恐ろしい影の
部分があるからといって単純に「自然にかえれ」と叫ぶだけではだめなんだ。
そういう影をコントロールするのも科学によらなければいけないんだ”などと
いう思いもそのサークル活動の中で培った。…(後略)…

大学院に進学されて、修士論文を仕上げているときに、お父さんが危篤の電報を
受け、1週間後に亡くなられた。その後「がむしゃらに勉強し」て、1年ほどの臨

時教諭の後、正採用になられる。そのあとのお話がドラマチックで当時の中学校は荒れていた時代で、酒・タバコ・授業エスケープ・ガラス割り・対教師暴力……「ほとんどノイローゼになりそうな毎日」を過ごす中で出会った科教協や極地研から大きな影響を受けられる。

(前略) そんな時に研究集会で聞いたのが、山手中学の古市景一さんの“自然たんけんニュース”の話だった。これだと思った。荒れている子どもたちが少しはこちらに顔をむけてくれるんじゃないだろうか。必死で始めた。“大社の自然”である。古市さんの先輩の畑中さんにいろいろ教わる中で科教協や極地研の存在も知り、全国の仲間の実践から多くの刺激を受けた。ちょっとずつだが授業も変わってきた。こうして始めた“大社の自然”は今は“平木の自然”に変わったけれど6年目を迎えている。自然通信はどんなことがあっても続けよう。子どもたちの声は、どんなに些細なことでもていねいにきいていこう。今、子どもがおとなしいからといって、自分が傲慢になってはならないと自戒している。

自然通信はこのあと“真砂の自然”へと続き現在は“住吉の自然”を発行されている。

それでは、内山先生の実践の特徴でもある自然通信について、もう一つの冊子「自然観察を通して環境を考える」から引用してみます。「はじめに」の部分から

(前略) かつて、昭和初期に六甲では大洪水によって多くの命が失われたので、植林や砂防工事、河川の護岸工事などは、人々の熱い熱望のもとに、熱心に進められてきた。しかし、今日の護岸工事は、そこにカワセミやカワガラスの巣があることなどおかまいなく、コンクリート化していく。アマゾンの熱帯雨林が焼かれて牧場にされる光景をテレビでみて、多くの人が憤慨する一方で、規模は小さいとはいえ、私たちの身近なところで、川の緑のささやかなカワセミの住かをコンクリート化し、カワセミを住めなくしている。身近なところでは、生活のためにやむを得ないというのなら、ブラジルの人たちの豊かになりたいという生きる営みに対しても何も言えなくなってしまう。その意味から、私たちは、目と鼻の先の身近な自然を通して環境を考えることが大切だと考える。

次に「自然通信の勧め」から

(前略) 私が通信を続けさえすれば、子供たちは次々と珍しい報告をしてくれる。続ける上で大切なことは、教師が季節の生き物の話をし、自分なりに珍しいと思ったら、何でも、もってきてねと子供たちに投げかけをすることである。そして、もってきてくれたものは珍しくなくても通信で紹介すること、そして、持ち込まれた生物は、その季節のものなので、記事が古くならないうちに、通信にして発行することである。このような姿勢を続けることで、必ず、子供たちは自然に関心を示してくれるようになる。

日本環境教育学会 関西支部規約

第1条「名称」

本会は日本環境教育学会 関西支部と称する。

第2条「事務局」

本会に事務局を置く。その所在地については別に定める。

第3条「目的及び活動」

本会は環境教育の推進を目的とし、関西地域を中心に以下の活動を行う。

- (1) ワークショップ・シンポジウム・研究大会等の開催。
- (2) ニュースレター（関西エコメール）などの発行。
- (3) 環境教育の理論・実践等に関する情報・人材の交流。
- (4) その他、目的を達成するための出版等必要な事業。

第4条「支部会員の構成」

本会は日本環境教育学会の会員で、支部会員の申請をした者をもって構成する。

第5条「会費」

構成員は、通信費・印刷費等の会費を負担する。会費の額については別に定める。

第6条「総会」

年に1回、定期総会を開く。総会は会員の10分の1（委任状提出者を含む）の出席をもって成立とする。総会での議決は出席者の過半数とする。

第7条「組織」

(1) 世話人会

本会に支部を運営する世話人会を置く。世話人は支部会員の中から公募する。任期は1年とし、継続はこれを妨げない。

(2) 支部長

本会に支部を代表する支部長を置く。支部長は世話人の中から互選する。

(3) 委員会

支部長を補佐し、目的と活動を遂行するために、世話人会の中に委員会を置く。委員は世話人の中から支部長の指名によって選出する。委員会は、企画・広報・事業等に分かれてそれぞれの役目を果たす。

第8条「規約改正」

規約の改正は世話人会で原案を作成し、総会で承認を得る。

付則

この規約は1995年12月 9日から施行する。

今回の支部総会は規約が施行されて第1回目の総会です。
支部規約の全文を掲載しました。総会の参考にしてください。

なっとわーく

阪神・都市ビオトープ・フォーラム実行委員会 より

別紙折り込みのビラは来年1月25日に開催される、「学校ビオトープ・フォーラム」の案内です。代表の赤尾氏がエコメールの発送に合わせて依頼されましたので、同封させていただきました。その旨ご了解ください。

1997里山シンポジウムのご案内

里山ホリディのすすめ

—保全と活用———21世紀への提言—

里山の“みどり”は都市を取り巻く自然景観としての大切さとともに、防災、水源の保全、土壌の生産といった役割、さらに近年では、レクリエーションの場、環境教育の場としても注目されています。また里山はさまざまな生き物の棲息地であり、その環境を維持することは多様な自然を護る意味でも大切です。大阪自然環境保全協会「里山委員会」は下記のシンポジウムを開催し、里山の大切さを広く市民に訴え、今までの活動を通して得た“市民による里山保全活動”のノウハウを公表、交換する場を持つ予定です。（エコメール次号で詳しい案内を発信する予定です。）

と き 1997年3月1日（土） 午前10:00～午後5:00

ところ MBSギャラクシーホール 大阪市北区

基調講演 立命館大学教授 宮本憲一「都市の再生と里山保全」（仮題）

パネルディスカッション 「どうする・どうなる里山のこれから」（仮題）

出席予定者 大阪府立大学教授 石井 実

なっとわーく

今号のワークショップ報告で登場した内山裕之先生が作られたご本「こんなの知ってる？動物面白クイズ」を内山先生ご本人から送っていただきました。明治図書が発行で授業面白ゼミナールシリーズの17巻目にあたるものです。一度書店でご覧ください。

関西ECOMAIL

第35号 1996年12月10日発行

編集 日本環境教育学会 関西支部 世話人会 広報委員会

発行 日本環境教育学会 関西支部

事務局 大阪教育大学 環境科学教育研究室(鈴木善次研究室)気付

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1 (TEL&FAX 0729-78-3381[直通])

次回 第36号 1997年1月10日発行予定 原稿必着期限1月5日

(原稿は広報委員の植田善太郎まで、直接郵送かFAXしていただく方が早く記事になります)

〒592 堺市浜寺石津町東2-3-35 TEL&FAX: 0722-47-2751)